

至自 至自		昭	
		20	
		年月日	
11 10 10 9 8	8 8	7 7	
29 4 中旬 16 27	23 9	30 10	
<p>大隊長 大尉 中野正頼</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>同地において第一〇八、第一四九作業大隊編入。</p> <p>牡丹江省海林に到着。</p> <p>同日哈爾濱香坊出発、途中横道河子で下車し、海林まで行軍。</p> <p>哈爾濱成高子において武装解除。</p> <p>日「ソ」開戦にともない哈爾濱市内の警備および治安維持に任じた。</p> <p>爾後教育訓練および哈爾濱付近の警備に任じた。</p> <p>召者をもつて編成完結。</p> <p>濱江省哈爾濱において第三軍および第五軍の隷下各隊よりの抽出人員と現地応</p>		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。</p> <p>濱江省哈爾濱において第三軍および第五軍の隷下各隊よりの抽出人員と現地応</p> <p>召者をもつて編成完結。</p> <p>爾後教育訓練および哈爾濱付近の警備に任じた。</p> <p>日「ソ」開戦にともない哈爾濱市内の警備および治安維持に任じた。</p> <p>哈爾濱成高子において武装解除。</p> <p>同日哈爾濱香坊出発、途中横道河子で下車し、海林まで行軍。</p> <p>牡丹江省海林に到着。</p> <p>同地において第一〇八、第一四九作業大隊編入。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p>	
		略 歴	
		摘要	

## 独立歩兵第七八一大隊略歴

奮進第三七五一五部隊

略

歴

摘要

0508

至自至自										昭	年 月 日	略 歴	通称号 奮進第三七五一六部隊 独立歩兵第七八二大隊略歴
11	10	10	9	8	8	8	8	7	7	20			
29	4	中旬	16	27	24	23	9	30	10				
<p>大尉 竹下千秋 大隊長</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>同地において第一〇八、第一四九、作業大隊に編入。</p> <p>牡丹江省海林に到着。</p> <p>同地より行軍にて海林に向う。</p> <p>同日香坊出発途中横道河子まで鉄道輸送。</p> <p>哈爾濱香坊において武装解除。</p> <p>に治安維持に任じた。</p> <p>日「ソ」開戦にともない哈爾濱競馬付近の警備および哈爾濱市内の警備ならび</p> <p>爾後教育訓練および同地付近の警備に任じた。</p> <p>召者をもつて編成完結。</p> <p>浜江省哈爾濱において第三軍および第五軍の隸下各隊よりの抽出人員と現地応</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。</p>										略	歴	摘要	

0509

昭和							年	月	日	略	歴	摘	要
20													
10	9	8	8	8	7	7							
	12	10	27		23	9	30	10					
<p>独立混成第一三一旅団挺進大隊略歴 通称号 奮進第三七五一七部隊</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。          滨江省哈爾濱において第三軍および第五軍の隸下各隊よりの抽出人員と現地応召者をもつて編成完結。          爾後挺進奇襲の教育訓練に従事。          日「ソ」開戦にともない哈爾濱市内の警備および治安維持に任じた。          哈爾濱競馬場において武装解除。          同日哈爾濱香坊出發、途中横道河子で下車し海林まで行軍。          牡丹江省海林到着。          海林において第一〇七作業大隊に編入。          綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>隊長 大尉 戸田三郎</p>													

0510

至 自 至 自		昭	年 月 日	略 隊	摘要					
11	10	9				8	8	8	7	7
29	4	中旬				16	27	24	23	9
隊長 大尉 推 名 隆		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。          浜江省哈爾濱において第三軍および第五軍の隷下各隊よりの抽出人員と現地応召者をもつて編成完結。          爾後現地応召者の教育訓練に従事ならびに哈爾濱付近の警備に任じた。          日「ソ」開戦にともない哈爾濱市内の警備ならびに治安維持に任じた。          哈爾濱成高子において武装解除。          同日哈爾濱香坊出發途中横道河子まで鉄道輸送。          横道河子を行軍で出發。          牡丹江省海林到着。          海林において第一〇九、第一四九作業大隊に編入。          綏芬河經由入「ソ」。</p>								

独立混成第一三一旅団砲兵隊略歴

通称号 奮進第三七五一八部隊

0511

昭		年	月	日	略	歴	摘	要	
20	7								
7	7								
自	8	8	8	8	8	8	8	8	
自	8	8	8	8	8	8	8	8	
至	9	9	9	9	9	9	9	9	
自	10	10	10	10	10	10	10	10	
至	10	10	10	10	10	10	10	10	
至	12	4	16	10	27	23	9	30	10
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。          濱江省哈爾濱において第三軍および第五軍の隷下各隊よりの抽出人員と現地応召者をもつて編成完結。          爾後主として兵器器材の整備および現地応召者の教育訓練に任じた。          日「ソ」開戦にともない哈爾濱市内の警備および治安維持に任じた。          哈爾濱南崗荘において武装解除。          同日哈爾濱香坊出發、途中横道河子で下車し海林まで行軍。          牡丹江省海林到着。          第一〇七、第一〇八作業大隊に編入。          綏芬河經由入「ソ」。</p>									
<p>隊長          大尉 石原 勇</p>									

## 独立混成第一三一旅団工兵隊略歴

通称号 奮進第三七五一九部隊

略歴

摘要

0512

至自至自		昭	年 月 日	略 歴	通称号 奮進第三七五二〇部隊	独立混成第一三一旅団通信隊略歴						
11	10	10					9	8	8	8	7	7
29	4	中旬					5	27	23	9	30	10
隊長 中尉 曾根 碩 男		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。          濱江省哈爾濱において第三軍、第五軍よりの抽出人員および現地応召者をもつて編成完結。          爾後兵器、器材の整備および現地応召者の教育訓練に任じた。          日「ソ」開戦にともない屯営にありて待機、爾後主力は旅団司令部と同旅団隷下歩兵部隊および第四軍司令部間の通信連絡に任じ一部は対戦車壕の構築に任じた。          哈爾濱成高子において武装解除。          同日哈爾濱香坊出發途中横道河子で下車し海林まで行軍。          牡丹江省海林到着。          第一〇八、第一〇九、第一四九、作業大隊に編入。          綏芬河經由入「ソ」。</p>								摘要		

0513

至自 至自		昭	年 月 日	略 歴	
11	10	7			7
29	4	30			10
中旬		8	8	<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。          浜江省哈爾濱において第三軍および第五軍の隷下各隊の抽出人員と現地応召者をもつて編成完結。          爾後旅団各部隊への兵器彈藥糧秣等の輸送業務に従事。          日「ソ」開戦にともない哈爾濱市内の警備および治安維持に任じた。          哈爾濱成高子にて武装解除。          同日哈爾濱香坊出發途中横道河子で下車し海林まで行軍。          牡丹江省海林到着。          第一〇七、第一〇九、第一四九、作業大隊に編入。          綏芬河經由入「ソ」。</p>	
隊長					
大尉 沢 常 次 郎					
				摘 要	

独立混成第一三一旅団輜重隊略歴

通称号 奮進第三七五二一部隊

0514

昭										年	月	日	略	歴	摘	要			
至 自		至 自		至 自		至 自		至 自									20	7	10
9	9	9	9	9	9	8	8	8	8								7	7	7
30	20	24	17	24	16	24	21	20	9	31	10	10							
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p> <p>黒河省瓊瑯において第六国境守備隊よりの人員を基幹として編成完結</p> <p>日「ソ」開戦にともない瓊瑯陣地において「ソ」軍と交戦</p> <p>黒河省、徒溝子において武装解除後徒歩行軍にて孫呉に向い出発</p> <p>孫呉に集結</p> <p>孫呉第一八、第一九作業大隊に編入</p> <p>孫呉出発</p> <p>黒河経由入「ソ」</p>													隊長		少将 浜田重之助				
<p>通称号 不朽第三七五六二部隊</p>													独立混成才一三五旅団司令部略歴						

0515



777

至 自		昭	年	独立歩兵才七九五大隊略歴
8	8	7	7	
20	10	31	10	
<p>この間環陣地で戦闘</p> <p>歩兵砲隊および機関銃中隊の主力は第二中隊の戦闘に協力した。</p> <p>第四中隊 北山陣地</p> <p>第三中隊 三角台陣地</p> <p>第二中隊 南丘陣地</p> <p>第一中隊 東山陣地</p> <p>陣地内の配備状況</p> <p>環陣地に到着配備につく。</p>		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p> <p>黒河省環陣地において第六国境守備隊よりの人員を基幹として編成完結</p> <p>爾後環陣地二站陣地において陣地構築</p> <p>日「ソ」開戦にともない大隊は二站出發</p>		<p>通称号 不朽第三七五六三部隊</p>
		<p>略</p>		
				<p>歴</p>
				<p>摘要</p>

0516



至 自		至 自		至 自		至 自		昭 20		年 月 日	略 歴	通称号 不朽第三七五六四部隊	独立歩兵才七九六大隊略歴		
9	9	9	9	9	9	8	8	8	8					7	7
30	10	25	7	24	5	24	21	21	9					31	10
<p>第三中隊は開戦時徒溝子七曲陣地に配備</p> <p>黒河經由入「ソ」</p> <p>孫呉出発</p> <p>孫呉第九第一八第一九作業大隊に編入</p> <p>黒河省孫呉に集結</p> <p>二站陣地において武装解除後同地出發</p> <p>陣地内で戦闘したが損害は輕微であつた。</p> <p>大隊（三中隊を欠く）は二站陣地において陣地構築中開戦</p> <p>黒河省環瑋において第六国境守備隊よりの人員を基幹として編成完結</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>												略	歴		
												摘	要		

0518

至 自

9	9	9	9	8	8	8	8
17	15	13	3	28	21	21	12

この間同陣地において激戦を交え多数の損害を出した。

徒溝子において武装解除

徒溝子出発

孫呉に到着、一部は北安省北安に向つて南下中満軍の襲撃を受け四散した。

孫呉第九作業大隊に編入

孫呉出発

黒河經由入「ソ」

隊長

大尉 松沢喜代治

0519

至 自		昭	年	略 歴	摘 要
		20	月 日		
8	8	7	7	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
20	19	7	31	黒河省瑗珲において第六国境守備隊の三大隊を基幹として現地応召者をもつて編成完結	
	8	8	9	爾後主力（第四中隊を除く）は二站陣地および朝水陣地において陣地構築	
	8	8	21	朝水陣地の状況	
	8	8	23	黒河省徒溝子において武装解除	
	8	8	12	黒河省孫呉に集結	
	8	8	19	二站陣地の状況	
	8	8	20	この間「ソ」軍歩兵部隊と交戦若干の損害あり。	
	8	8	20	二站において武装解除	
	8	8	20	爾後孫呉に集結、朝水の部隊と合流	

## 独立混成才七九七大隊略歴

通称号 不朽第三七五五六部隊

0520

	至	自	至	自	至	自
	9	9	9	9	9	9
	30	16	24	15	24	14
	<p>孫呉第六第一八第一九作業大隊に編入</p> <p>孫呉出發</p> <p>黒河經由入「ソ」</p> <p>一部第四中隊は日「ソ」開戦にともない環陣陣地にて「ソ」軍と交戦、八月二十二日環陣陣地において武装解除爾後孫呉に集結。主力と合流</p> <p>隊長</p> <p>大尉 千葉 徳 明</p>					

0521

年 月 日		略 歴	摘 要
昭 20	7 月 10 日	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
7 月 31 日	黒河省瑯嶺において第七国境守備隊の第四第五中隊の人員を基幹として編成完結		
	爾後次のとおり各中隊を配備		
	本銃中隊 歩兵砲中隊	山 神 府	
	第 二 中 隊	達 音 山	
	第 三 中 隊	法 別 拉	
	第 四 中 隊	神 武 屯	
	主力の行動		
8 月 9 日	日「ソ」開戦		
8 月 11 日	部隊主力は(第四中隊を除く)嫩江に向かつて各警備地を出発		
8 月 20 日	北安省嫩江に到着、各中隊合流		
8 月 21 日	同地において武装解除		

独立混成才七九八大隊略歴

通称号 不朽第三七五五六部隊

0522

		至 自		至 自		至 自		至 自		至 自																			
9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9												
19	16	15	20	17	16	22	20	17	15	11	11	26	16	22	12	11	10												
隊長少佐 和田勝		黒河経由入「ソ」		孫呉出発		一部は孫呉第一一作業大隊に編入		黒河経由入「ソ」		孫呉出発		主力は孫呉第一九作業大隊に編入		二站において武装解除後孫呉に移動。		二站陣地において戦闘。両戦闘において多数の損害をうけた。		瑗瑗陣地において戦闘		神武屯を出発、同日瑗瑗着		第四中隊の行動		黒河経由入「ソ」		嫩江出発		嫩江第三第三作業大隊に編入	



至 自		至 自		昭 20		年 月 日	略 歴	独立混成才一三五旅団挺進大隊略歴 通称号 不朽第三七五六七部隊	
9	9	8	8	7	7				
24	13	23	21	19	12				31
孫呉第一〇第一八第一九作業大隊に編入		黒河省孫呉に集結		黒河省徒溝子において武装解除		各陣地においてしばしば奇襲戦闘を敢行し多数の生死不明者を出した		第二中隊は瑗珲西山、船山、蹄鉄山各陣地に配備。	
				日「ソ」開戦に伴ない本部、第一中隊は瑗珲中山陣地に配備		主力の行動		て編成完結	
						軍令陸甲第一〇六号により編成下令		黒河省瑗珲において第六国境守備隊および第一二三師団からの抽出人員をもつ	
								摘要	

0524

至	自	至	自
9	9	9	9
30	17	24	15

孫呉出發

黒河經由入「ソ」

第三中隊の行動

8 日「ソ」開戦に伴ない主力は黒河省二站陣地、一部は朝水陣地に配備戦闘に参加。

8 二站において武装解除

8 孫呉に集結主力と合流し同行動

8 堀部少尉以下一二名は作業大隊を編成せず二站より直接入「ソ」

隊長

中尉 亀田 弘

至 自		至 自		昭 20		年	独立混成才一三五旅団砲兵隊略歴
8	8	8	8	7	7	月	
24	23	22	21	19	11	日	
黒河省孫興に集結		第一第三中隊は徒溝子において武装解除		戦闘せず。		略	
本部、第二中隊は二站陣地において武装解除		瑗瑀陣地および二站陣地は「ソ」軍の攻撃を受け損害を受けたが、朝水陣地は		日「ソ」開戦にともない、次の如く配備につく		歴	
		第三中隊 朝水陣地		本部、第二中隊 二站陣地		要	
		第一中隊 瑗瑀陣地		黒河省瑗瑀において第六国境守備隊砲兵隊を基幹として編成完結			
				爾後同地付近の陣地構築			
				軍令陸甲第一〇六号により編成下令			

通称号 不朽第三七五八八部隊

独立混成才一三五旅団砲兵隊略歴

	至	自	至	自	至	自
	9	9	9	9	9	9
	30	16	24	15	24	14
			黒河経由入「ソ」		孫呉出發	孫呉第九、第一八、第一九作業大隊を編入
		隊長				
	少佐					
		長				
		嶋				
		博				

											昭	年	月	日	略	歴	摘	要							
至 自			至 自			至 自			至 自		20														
9	9	30	9	9	24	9	9	24	8	8	23								8	8	22	8	8	19	8
黒河經由入「ソ」			孫呉出発			孫呉、第一、第一八、第一九作業大隊に編入			黒河省孫呉に集結			一部は二站において武装解除			主力は黒河省徒溝子において武装解除			両陣地において戦闘		日「ソ」開戦に伴ない主力は瓊瑯東山陣地、一部は二站陣地に配備		黒河省瓊瑯において第五、第六国境守備隊工兵隊の人員を基幹として編成完結		軍令陸甲第一〇六号により編成下令	

独立混成才一三五旅団工兵隊略歴

通称号 不朽第三七五六九部隊



至 自		至 自		至 自		至 自		至 自		昭	年	独立混成才一三五旅団通信隊略歴													
9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	7	7		月												
24	15	24	14	23	21	22	21	19	11	9	31		10	日											
孫呉出発		孫呉第一八第一中隊作業大隊に編入		各陣地より黒河省孫呉に集結		朝水陣地の者は徒溝子において武装解除		二站陣地に配備されたものは二站において武装解除		主力は徒溝子において武装解除		各陣地において戦闘		に配備		日「ソ」開戦に伴ない主力は瑗瑛北山陣地に配備。一部は二站陣地及朝水陣地に配備		軍令陸甲第一〇六号により編成下令		略		歴		摘要	

0530

784の2

至 自

9 9

30 16

黒河經由入「ソ」

隊長

中尉 小松 義次

0531



至 自		至 自		至 自		至 自		昭 20		年 月 日	略 歴	通称号 不朽第三七五七一部隊	独立混成才一三五旅団輜重隊略歴										
9	9	9	9	8	8	8	8	7	7														
24	16	24	15	23	22	19	11	9	31					10									
孫呉出発		孫呉第一、第一八第一九作業大隊に編入		黒河省徒溝子において武装解除		黒河省孫呉に集結		陣地の守備に任じた。		主力は瑗瑗陣地において交戦。		残余の人員を以つて瑗瑗陣地二站陣地間、或は陣地内の輸送に任ずる他、南山		集結		日「ソ」開戦時二站陣地の構築中であつた主力約二五〇名は直ちに瑗瑗陣地に		重隊の各一部をもつて編成完結		軍令陸甲第一〇六号により編成下令		黒河省瑗瑗において第六国境守備隊砲兵隊及、第一二三師団砲兵隊ならびに輜	
												摘要											

0532

785の2

至 自

9 9

30 17

黒河経由入「ソ」

隊長

大尉 上野武夫

0533

至自至自至自 至自											昭	年 月 日	独立混成第一三六旅団司令部略歴 通称号 奮闘第三七五七三部隊			
											20					
11	11	10	10	9	10	9	9	9	8	8	8			7	7	
2	1	30	23	18	10	2	24	2	20	20	17	15	30	10	略	歴
<p>滿洲里經由入「ソ」。</p> <p>齊々哈爾出発。</p> <p>將校は齊々哈爾將校大隊に編入。</p> <p>滿洲里經由入「ソ」。</p> <p>齊々哈爾出発。</p> <p>齊々哈爾第二、第三、第八、第二二各作業大隊に編入。</p> <p>齊々哈爾において武装解除。</p> <p>竜江省齊々哈爾に転進。</p> <p>停戦。</p> <p>者をもつて編成完結。爾後嫩江付近の警備。</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。</p> <p>北安省嫩江において第五国境守備隊と歩兵第二六九連隊の基幹人員と在滿応召</p>																
														摘	要	

0534

旅团长

少将  
土屋直二郎

0535

						昭	年 月 日	略 歴	摘 要
						20			
						7			
		9	9	9	8	7	7	<p>通称号 奮闘第三七五七四部隊</p> <p>独立歩兵第七九九大隊略歴</p>	<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。            北安省嫩江において第五国境守備隊の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。            爾後同地において陣地構築に従事。            北安省嫩江において武装解除。            嫩江において第三作業大隊に編入。            嫩江出發。            黒河經由入「ソ」。</p>
		16	12	10	20	30	10		
		<p>大隊長            大尉 間手原瑞夫</p>							

0536

至自		昭	年 月 日	略 歴	通称号 奮躍第三七五七五部隊 独立歩兵第八〇〇大隊略歴		
		20					
9 9 9	8 8	7 7					
26 23 22	30 22	30 10					
大隊長 少佐 今井利清		軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 北安省嫩江において第五国境守備隊の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。 爾後同地において陣地構築。 嫩江において武装解除。 嫩江において第二作業大隊に編入。 嫩江出発。 黒河経由入「ソ」。					
					摘要		

0537

昭										年		独立歩兵第八〇一大隊略歴
21										月		
2	11	10	9	9	8	8	8	7	7	日		
昭										20		通称号 奮闘第三七五七六部隊
12	17	25	29	23	18	15	14	30	10	略		
<p>大隊長 大尉 石井寅三郎</p> <p>黒河着 黒河經由入「ソ」。</p> <p>綏化出発。 北安省綏化に到着。</p> <p>安達出発。 浜江省安達において武装解除。</p> <p>竜江省齊々哈示に到着。その後浜江省安達に移動。</p> <p>嫩江出発。</p> <p>爾後同地において陣地構築作業。</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 北安省嫩江において第五国境守備隊の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。</p>										歴		摘要

0538

昭和20年		略		歴		摘要		
年	月	日	略	歴	摘要	略	摘要	
昭	20	3	7	30	10			
		10	9	9	8	8	8	
		3	27	24	20	16	15	
		<p>大隊長 大尉 当山朝得</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 北安省嫩江において独立混成第八〇旅団の基幹人員と在満応召者をもつて編成 完結。 爾後嫩江付近の陣地構築作業。 嫩江出發、齊々哈爾に移動。 竜江省齊々哈爾到着。 齊々哈爾兵器廠において武装解除。 同地において齊々哈爾第八作業大隊に編入。 齊々哈爾出發。 満洲里經由入「ソ」。</p>						

0539



昭和20年		略	歴	摘要
年	月日			
7	7		單令陸甲第一〇六号により編成下令。	
7	30		北安省嫩江において第一二五師団、第一一九師団の隸下よりの転属者ならびに在満応召者をもつて編成完結。	
8	9		爾後同地付近の警備。	
8	13		開戦にともない嫩江付近において遊撃戦闘準備。	
8	16		齊々哈爾に転進のため嫩江出發。	
8	20		竜江省齊々哈爾に到着。	
9	15		齊々哈爾兵器廠において武装解除。	
9	16		同地において齊々哈爾臨時第二作業大隊に編入。	
9	18		齊々哈爾出發。	
			滿洲里經由入「ソ」。	
<p>大隊長 大尉 熊谷義男</p>				

獨立混成第一三六旅団挺進大隊略歴

通称号 奮躍第三七五七八部隊

0540

		昭 20		年 月		日		略 歴		摘 要
		9	9	9	8	8	8	8	7	7
		18	16	15	20	17	16	9	30	10
隊長 少佐 宮崎春雄		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。          北安省嫩江において第五国境守備隊、追撃第一七大隊の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。          爾後同地において陣地構築。          開戦と同地に部隊は嫩江東方高地に配備一部をもつて兵器廠支部倉庫および弾薬庫の警備に任じた。          嫩江出發。          竜江省齊々哈爾に到着。          齊々哈爾において武装解除。          同地において齊々哈爾臨時第二作業大隊に編入。          齊々哈爾出發。          滿洲里經由入「ソ」。</p>								

独立混成第一三六旅団砲兵隊略歴

通称号 奮闘第三七五七九部隊

0541

				昭	年	月	日	略	歴	摘	要
				20							
				7							
	9	9	8	7	7						
	21	13	21	30	10						
<p style="text-align: center;">独立混成第一三六旅団工兵隊略歴</p> <p style="text-align: center;">通称号 奮闘第三七五八〇部隊 奮闘第三七五八一部隊</p> <p style="text-align: center;">軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 北安省嫩江において工兵第一一九連隊、独立混成第八〇旅団工兵隊の基幹人員と在満応召者をもつて編成完結。 爾後嫩江付近の警備および陣地構築作業。 嫩江において武装解除。 同地において嫩江第一作業大隊に編入、同日同地出発。 黒河經由入「ソ」。</p> <p style="text-align: center;">隊長 大尉 永利 敏夫</p>											

0542

		昭 20		年		月		日		略 歴	摘 要
		10	9	9	8	8	8	7	7		
		3	27	24	20	15	14	30	10		
隊長 中尉 岡田博吉		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。            北安省嫩江において第五国守備隊および第一一九師団通信隊の基幹人員と在満            応召者をもつて編成完結。            爾後嫩江陣地通信網の整備および陣地構築。            嫩江出発。            齊々哈爾着。            竜江省齊々哈爾において武装解除。            齊々哈爾第八作業大隊に編入。            齊々哈爾出発。            満洲里經由入「ソ」。</p>									

0543

昭 20	年	略		略	
7	7	9	9	8	
10	7	21	13	21	
日	日	日	日	日	
		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。            北安省嫩江において輜重兵第一一九連隊および独立自動車第八二大隊の基幹人員と在満の応召者をもつて編成完結。            爾後同地において部隊装備兵器輸送および陣地構築。            嫩江において武装解除。            同地において第一作業大隊に編入、同日出発。            黒河省經由入「ソ」。</p>			
		<p>隊長            少佐 片田寛三</p>			
					摘要

独立混成第一三六旅団輜重隊略歴

通称号 奮躍第三七五八三部隊

0544

					昭 19	年 月 日	略 歴	摘 要
至自至自 昭 20					9			
8	7	7	5	1 11 11 9	9			
9	30	10	中旬	31 11 10 10				
<p>軍隊区分により第三方面軍及第四軍隷下部隊からの差出し人員をもつて第三方面軍臨時遊撃隊を齊々哈爾において編成、同日第三方面軍司令官の指揮に入る。</p> <p>編成</p> <p>本部 (長中佐有富和夫)</p> <p>大隊 三</p> <p>遊撃隊編成基幹要員の集合教育を齊々哈爾において実施。</p> <p>遊撃隊編成要員の綜合教育(野外訓練)を齊々哈爾、札蘭屯、神武屯において実施。</p> <p>本部、第二、三大隊奉天省新民に移駐と同時に第一大隊は第四軍司令官の指揮に入る。</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。</p> <p>北安省嫩江において臨時遊撃隊第一大隊を基幹として第四軍隷下部隊からの差出し人員をもつて編成完結。</p> <p>第二大隊を混成第一三六旅団長の指揮に入らしめて嫩江に残置し部隊主力は齊</p>								

第一二二遊撃隊略歴

(第三方面軍臨時遊撃第一大隊)

通称号 滿第九八〇部隊 光第二六八九八部隊

略歴

摘要

0545

	9	9	8	8	8	8	8
	23	4	28	23	15	11	10
<p>々ハ爾に向い出発。</p> <p>齊々ハ爾着、同日齊々ハ爾出発。</p> <p>ハ爾浜着、同地において遊撃戦準備。</p> <p>ハ爾浜において停戦。</p> <p>浜江省香坊において武装解除、同日同地出発。</p> <p>牡丹江省海林着。</p> <p>主力は海林作業第一〇二大隊に編入。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>嫩江に残置した第二大隊は八月二十二日嫩江において武装解除。九月十三日作業第四大隊に編入後九月十三日から九月二十四日の間黒河經由入「ソ」。</p>	<p>隊長</p> <p>少佐 一ノ瀬 滝次</p>						

0546

			昭 昭	年 月 日	略 歴	摘 要
			16 15			
8	8	8	8 7			
19	16	13	5 17			
益山上陸	大阪港出帆。	弘前出発。	第五中隊 自動車	第四中隊 戦車	第三中隊 自動車	第二中隊 自動車
			第一中隊 乗馬	本部	中隊	編成
			軍令陸乙第二二号により騎兵第八連隊留守隊を捜索第五七連隊と称号を変更。 編成下令。 弘前において編成完結。			

捜索第五七連隊略歴

通称号 光第七二一五部隊

0547



		昭 20		昭 17			
		9	9	9	8	8	8
		21	13	12	22	9	22
		黒河經由入「ソ」。		嫩江出発。		北安市嫩江において武装解除。	
		隊長		少佐 魚沢清太郎		鮮満国境通過。	
		環璣県神武屯着、同日より同地付近の警備。		軍令陸甲第八五号により編成改正。		神武屯において編成完結（第三、第四、第五中隊解隊）。	
		第五七師団主力が北九州に転用せられた際本連隊は満洲に残留した。		神武屯に第一二五師団新設にともないこの連隊は第一二五師団の隷下となった。		第一二五師団が通化移駐にともないその隷下を脱し第四軍の直轄となる。	
		神武屯出発北安市嫩江に移駐同地付近の警備。		日「ソ」開戦にともない「ソ」軍の状況捜索に任じたが交戦することなく終戦となる。			

0548

至自		昭		年 月 日	略 歴	摘 要
		20				
9	8	8	7 6			
15	21	9	20 23	18 10 10 16		
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。          黒河省孫呉において編成完結。          黒河省環瑛軍に移駐（第一二五師団長の指揮下に入る）。          編成状況          本部 一          中隊 三          段列 一</p> <p>第一二三師団の指揮下に入る。          部隊は再び孫呉に移駐のため佐藤見習士官の指揮により各隊より約三分の一の兵力を先発隊として派遣。          日「ソ」開戦にともない部隊主力は独立混成第一三五旅団長の指揮下に入る。          環瑛、朝水兩陣地にて交戦す。          孫呉において武装解除。          第一一、作業大隊に編入。</p>						

## 独立速射砲第三〇大隊略歴

通称号 光第二六八三〇部隊

略歴

摘要

0549

		9	9
		19	18
	隊長	孫興出發。	黒河經由入「ソ」。
	少佐		
	小川		
	巖		

0550

		昭 19		昭 20		昭 21		昭 22		昭 23		昭 24		昭 25		昭 26		昭 27		昭 28		昭 29		昭 30			
		10		10		11		12		1		2		3		4		5		6		7		8		9	
		月		月		月		月		月		月		月		月		月		月		月		月		月	
		日		日		日		日		日		日		日		日		日		日		日		日		日	
迫撃砲才一七大隊略歴																											
通称号 満第六八一部隊 光第二六八一七部隊 光第二〇七一一七部隊																											
軍令陸甲第一三五号により編成下令																											
興安北省海拉爾において第八国境守備隊の第一、第二、第三、第四及び第五地区隊等の差出し人員をもつて編成完結																											
爾後同地付近の警備																											
部隊主力は興安嶺に陣地構築のため移動し、一部は兵營警備および自活作業のため海拉爾に残留した。																											
興安嶺主力部隊の行動																											
主力部隊は興安嶺において搜索第一一九連隊長の指揮下に入る。																											
日「ソ」開戦に伴ない戦闘配備についたが交戦せず。																											
停戦																											
主力は博克図において武装解除																											
大部は博克図第一作業大隊、一部は第五作業大隊に編入																											
摘要																											

0551

			至	自				至	自	至	自
			8	8				10	9	10	9
			15	15				17	9	11	21
			11	11				8			
			15	15				18			
<p>博克図出發</p> <p>滿洲里經由入「ソ」</p> <p>海拉爾殘留隊の行動</p> <p>日「ソ」開戦と共に独立混成第八〇旅団長の指揮をうけて左の陣地守備につき激戦を交え多数の戦死者をだした。</p> <p>1. 第一〇一陣地 第三中隊 約六〇名 段列要員 約五名</p> <p>2. 第一〇二陣地 本部 約四〇名 第一中隊 約六〇名 段列要員 約三〇名</p> <p>3. 第一〇五陣地 第三中隊 約六〇名 段列要員 約五名</p> <p>各陣地において武装解除後海拉爾兵器廠に收容された。</p> <p>海拉爾第二作業大隊に編入</p> <p>海拉爾出發。同日滿洲里經由入「ソ」</p> <p>隊長</p> <p>少佐 林田健一</p>											

											昭	年	
											19		
3	8	7	6	5	4	4	4		3	3	3	2	月
18	10	20	10	14	28	7	1		29	22	10	15	日
<p>長沙出発 湖南省長沙着 新市出発 湖南省<sub>省</sub>市着 大冶出発 湖北省大冶着 燕湖出発 安徽省燕湖着 同日支那派遣軍總司令官の隷下に入る。 満支国境山海関通過 東寧県大城子出発 間島省東寧(大城子)野砲兵第二四連隊において編成完結 軍令陸甲第一一号により編成下令</p>											略	略	
											歴	略	
											摘	要	

独立野砲兵才一〇大隊略歴

通称号 光第三一五〇部隊

0553

昭														
20														
8	6	6	6	5	5	4	3	3	2	11	11	11	9	8
10	20	中旬	13	21	13	24	30	29	22	23	22	5	1	28
<p>湖南省衡陽着</p> <p>衡陽出発</p> <p>広西省桂林着。同日より同地付近の戦闘参加</p> <p>桂林出発</p> <p>広西省会仙着</p> <p>会仙出発</p> <p>湖南省長沙着</p> <p>長沙に林中尉以下九四名を残置</p> <p>長沙出発</p> <p>湖北省漢口着</p> <p>漢口出発</p> <p>江蘇省上海着。同地において陣地構築</p> <p>上海出発</p> <p>第四軍の戦闘序列に入る</p> <p>長沙に残置した九四名は第一二軍司令部に転属し同部隊と共に帰還した。</p> <p>竜江省齊々哈爾着</p> <p>日「ソ」開戦と同時に哈爾浜警備のため齊々哈爾出発</p>														

0554

									昭 20
	11	10	9	9	9	8	8	8	8
	25	15	15	13	8	23	24	17	15
	<p>                     隊長                      少佐 田中久二                 </p> <p>                     綏芬河經由入「ソ」                      海林出發                      將校および下士官の大部は海林作業大隊に編入                      綏芬河經由入「ソ」                      拉古出發                      更に拉古第二四作業大隊に編入                      爾後部隊の建制をとき將校、下士官、兵に区分収容                      兵の主力は、海林第一〇二作業大隊に編入。                      牡丹江省海林着                      哈爾濱出發                      哈爾濱香坊において武装解除                      哈爾濱において停戦                 </p>								